

1 会議概要

開催日時 令和2年2月28日(金)

開催場所 立科町テレワークセンター、ウェブ会議

2 あいさつ(小平副町長)

ご多忙のところ、また、遠方から当町までおいでいただき御礼申し上げます。また、新型コロナウイルスの感染が広がっていることを受け、感染拡大を防止する観点から、急遽、ウェブ会議システムによる遠隔参加ができる環境を整えさせていただきました。本日までご参加いただく予定としていた11名のうち7名の方がウェブ会議での参加となっています。このような形での会議の開催は初めてで不慣れですので、円滑な議事進行にご協力をお願いしたい。

当町のテレワーク推進事業は、平成29年度から本格的に動きはじめ、昨年度には本日までご参加の皆様が中心となって「立科町テレワーク推進コンソーシアム」という協議体を立ち上げ、お力添えをいただきながら着実に事業を推進しているところです。ひとえに皆様のお力添えのおかげであり、改めて感謝申し上げる次第です。

最近では、多くの自治体がテレワーク施設を立ち上げて企業の地方誘致や業務の受託を進めようとしている中ですが、当町は地に足がついた取組みを着実に進めていく所存です。多様な人たちが、町のあらゆる場所でインターネットと情報機器を活用して、仕事を通じた社会参加を果たすという「社会福祉型テレワーク」の実現を目指して、当町はしっかりと進めてまいりたいと思っています。

今日は、前回の会議から大きく時間が空いてしまいましたが、今年度初めての推進会議の開催になります。事務局から事業の進捗状況や、現在の課題、今後の予定について説明させていただきます。多くの関係するみなさまと情報の共有を図って、事業を推進していきたいと思っていますので、どのようなささいなことでも良いので、ぜひご発言をいただきたいと思います。ウェブ会議でご参加の方も、気にせずご意見をお願いいたします。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

まず、ウェブ会議ということもありますので、一言ずつお声を頂きたいと思います。

(ネットワンシステムズ株式会社 尾形様)

今日は、ウェブ会議ということで会議できているということで、まさに、テレワーク推進会議になっているんじゃないかと思います。

立科を中心に、東京・大阪・長野からみなさんご参加されているということで、総務省のふるさとテレワーク推進事業としても、このような設備が有効活用できているということで、とても有意義な会議だと思います。

併せて、立科町テレワーク事業は上手くいっていると感じていまして、今もあちらで、お母

様方がテレワークの仕事をされていますが、先程聞きましたところ「年間百数十万円程度を稼ぐお母様が何人か出てきている」とのことで、ぜひ発展するよう協力できたらと思います。

私も、総務省の推進アドバイザーという役割もありまして、塩尻市とか静岡市とか色々自治体を回っていますが、立科町は非常に注目されている自治体の一つになっておりますので、引き続き、皆さんと一緒にやれたらなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(沖電気工業株式会社 松山様)

本来なら立科町に何うのを楽しみにしていたのですが、コロナウイルスの関係であまり動けないのと、やっぱり感染が怖いなと言う気持ちがありますので、こうやって、安心してウェブ会議ができるということに価値があると思います。

ここ数日、在宅でテレワークのシステムを使ってやりとりをしているのですが、やはり、家にいるだけではなく、会って話をするのも価値があると感じていて、立科町でオフィスにお母様達が出てきて仕事をするということも、とても価値があるということに気が付き、やはり、人に会って仕事をするのが正しいと思いますので、早くコロナウイルスが終息してくれることを願っているところです。どうぞよろしくお願いいたします。

(株式会社沖ワークウェル 堀口様)

初めまして。私、昨年4月に着任しまして、本来なら皆様にお会いしてご挨拶をさせていただきたかったのですが、残念ながら昨今の状況から、職場から参加させていただきます。

私どもの会社は、障がい者雇用を行っており、重度障害のある社員がホームページの制作やWebシステムの開発等を担当しています。在宅で仕事をしているものが全国19都道府県に51名ほどいまして、普段は自社開発の音声のみのバーチャルオフィスシステムを使っています。常にカメラを前にして作業をしておりますと、表情がわかるということはあるのですが、プレッシャー・ストレスになるところもあるんだなと感じながらいるところです。

今日は、皆さんといろいろな情報交換ができればと思います。よろしくお願いいたします。

(株式会社 FM.Bee 高畑様)

こんにちは。弊社も、大阪近辺のIT企業もわりとテレワークをいま、皆さんされていて、在宅勤務も多くなってきました。

今回は、このような騒動で大変ですが、かえってテレワークが進んだ部分もあるのかなと、この業界では感じております。本日は、よろしくお願いいたします。

(株式会社フィールドデザイン 宮下様)

お世話になっております。今年なかなか立科町に携わることが少ないですが、気持ちも心も立科にあります。ぜひ引き続き、何でもやろうかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(株式会社 TOSYS 横沢様)

お世話になっております。本来ならお邪魔しませんでしたのですが、この状況ということで、遠隔で失礼いたします。

私たちは、立科町のテレワークを推進するお手伝いをさせていただいている立場なのですが、遠隔地で長野市と立科町の意味疎通が課題として、今日はテレビ会議をおためしのイメージであえてテレビ会議で参加させていただいています。今後も継続していきたいので、よろしくお願いいたします。

(株式会社 TOSYS 井川様)

ウェブ会議で失礼いたします。昨年より、弊社にてワーカー研修を企画・実施させていただく中で、本年度は、営業スキルやテレセールスのスキルを習得する研修を実施させて頂きました。テレワークの幅を広げていく部分でも今後もお手伝いできますし継続していければと思います。よろしくお願いいたします。

(長野県 企画振興部 先端技術活用推進課 企画幹兼課長補佐 甘利様)

よろしくお願いいたします。昨年の4月に新しい課ができて、テレワークの関係の事業を担当しています。

(株式会社アシストビジョン 乙吉様)

よろしくお願いいたします。埼玉県川口市でIT企業をやっております。当社に来たアンケート調査で、立科町がテレワークを推進しているということを知りまして、ぜひ、当社でもお手伝いできないかということで、企画課さんにコンタクトを取らせていただいた以来のお付き合いをさせていただいています。

来年度は、川口市商工会議所を通じて、立科町にもお仕事を出していただけるように、もっとか奮闘中で模索していますが、本年度中にも何とかなればと思っています。これからも、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(立科町商工会 舞沢様)

本日は、よろしくお願いいたします。立科町の事業を支援させていただいております。テレワーク推進をご協力させていただくのですが、初めてのことで、しっかりお話を聞いて、お力になればと思います。

(立科町社会福祉協議会 櫻井様)

よろしくお願いいたします。テレワークの会議に初めて参加させていただきます。障がいを持った人たちの生活のケアマネジメントをさせてもらっています。

仕事を探す中で、自宅から出られない等の事情がありますので、テレワーク事業があったら、発注させていただきたいなどと思い、色々学んで、利用者の皆さんに提供できたらと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

(立科町 竹重企画課長)

皆様方には、日ごろから当事業でお世話になっております。企画課は、権現の湯からテレワーク、ホストタウンと色々ありますが、その中でも、テレワーク推進事業は主力事業でありますので、皆様にご協力をいただきながら進めていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

(立科町 田口企画振興係長)

皆様方には、当町のテレワーク事業推進に当たり、お力添えいただき誠にありがとうございます。平成29年度から本格的に事業に取り組みまして、三か年の国の交付金を獲得して事業を進めてきましたが、本年度で一区切りということです。令和2年度以降の事業につきまして、また新たに計画を国に提出し、地方創生推進交付金を獲得して事業を進めていきたいと考えているところです。

これまでの取り組みで見えてきた課題を、今日の会議で皆様と共有させていただければと思っています。ワーカーさんの中には年間百万円を超えるお仕事をされている方も出てきたわけですが、これまで塩尻市振興公社様から主にお仕事をいただいていたということですが、令和2年度以降は、立科町テレワークセンターとして、クライアントさんの開拓をして、業務を安定的にしていくように進めていきたいと考えています。

皆様方のお知恵を借りて一步一步進めていきたいので、引き続きよろしくお願いいたします。

(立科町 企画課 主任 上前)

日頃、皆様には大変お世話になっております。今日はこのようなウェブ会議という形での開催になりましたが、引き続きよろしくお願いいたします。

(立科町 地域おこし協力隊 牧内氏)

昨年7月から塩尻市振興公社のディレクターとして、立科町のワーカーさんを見させていただいています。昨年1年間で、こちらの仕事も増えてワーカーさんも増えました。これまでの3年間でパワーが出てきましたから、業務拡大をしていきたいので、皆様のご協力をお願いいたします。

(住民ワーカー Aさん)

ワーカー登録をして1年になります。主にアノテーションのお仕事とバックオフィス系のお仕事をさせてもらっています。私としては、もっと皆さんの意見をうかがって仕事をしていきたいです。よろしくお願いいたします。

(住民ワーカー Bさん)

まだ登録したばかりで、色んなことを勉強させていただいているところです。仕事としてはこれからですが、テレワークは可能性があると思っていますので、よろしくお願いいたします。

3 会議事項

(1) 当会議について

(立科町 竹重企画課長)

皆さんありがとうございました。それでは、これから、会議事項に入りますが、議事の進行は、議長である副町長をお願いします。

(立科町 小平副町長：以下「司会」と記載)

それでは円滑な進行に努めますので、皆さん、ご協力をお願いいたします。

遠隔で参加されている皆様も、ご質問等ございましたら、遠慮なく発言をお願いいたします。それでは、会議事項、議事にうつらせていただきます。最初に、「(1) 今年度の取組みについて」事務局から説明をお願いします。

【事務局から資料1、資料2、資料3について説明】

(司会)

県でもワーケーションという形で推進されていますが、立科町でも「ワークトリップ」という形で事業を実施しています。県としてのアドバイスを伺いたいのですがいかがでしょうか。

(長野県 企画振興部 先端技術活用推進課 企画幹兼課長補佐 甘利様)

県としては、総務省のふるさとテレワーク事業ということで、平成27年度から国の補助金を使って県内に進めてきています。一方、ワーケーションについては管轄している課が分かれています、その点を以前から統一してできないかということで、進めているところです。

テレワークの部分については先端技術の活用の推進というところで当課が受け持っていますが、リモートワークの件は、また担当課と情報共有を図って皆様にも情報提供を行っていきたいと思っています。

(株式会社沖ワークウェル 堀口様)

立科町のテレワーク推進事業については、障がい者雇用をサテライトオフィスを中心に進めていると認識していますが、出向くことが難しい方がいらっしゃると思います。サテライトオフィスに通うだけではない柔軟な勤務をどう進めていくかもあわせて考えていく必要があると思います。

(沖電気工業株式会社 松山様)

社協の方も、お見えになっていますし、もともと雇用創出も、障がい者支援もやれるといいよねということでした。改めて、社協の方々や障がい者支援の方々と話し合いの場を設けられたらと思っています。

ワーケーションについては、南部の高原エリアは確かにいい環境なので、夏に向けて面白い取り組みができればいいなと思っています。

(立科町社会福祉協議会 櫻井様)

社会福祉協議会として、就労継続支援 B 型と作業所を持っています。

作業所に来られている方の年齢が高くなっているのと、定年がないので 70 才近くなっても働きたい人は来られます。でも、そうになると、若い障がいを持っている方の受け入れが難しい状態になります。養護学校を卒業した 18 才の子の受け入れができないので、テレワークとか福祉の面でもサポートがされて、立科町内でも働ける雇用場所があれば、ご本人も安心ですし、賃金面でも安心かと思います。

ただ、企業に頼るだけでは難しいと思うので、こちらでも支援しつつ、色々な知識をお持ちの方とチームワークという形で、進めていくことが大事だと思います。

(ネットワンシステムズ株式会社 尾形様)

先週、塩尻で開かれた会議でも同じ様な課題を持っていて、安定的な収入とか、仕事があった方が定期的に来られる、パートよりここで働きたいという方がいるので、この事業にはそれなりの魅力がある。そこで仕事をどうやって取ってくるのかという営業的なところと、在宅でできる仕事は企業の理解が無くてはできないので、どうやって増やしていくかが、課題かなと思います。

住民ワーカーの皆様がいい仕事をしていただくと、企業的にはもっと出したいと言う流れになってくるのですね。今年は、スタートした大切な年でして、ワーカーさんが一生懸命やっただいただいているので、もっともっと相乗効果で増えていくと思います。

仕事を取ってくるという課題ですが、地域の企業さんに理解していただきたいと思っています。立科町、あるいは佐久・上田とかにテレワーク事業をご理解いただいて、出していただくという地道な努力が大切だと思います。次回、住民ワーカーさんを含めて課題を一緒に考えて、進めていけたらと、思っております。

障がい者雇用については、他の自治体においてテレワークで仕事をして頂いているのですが、やはり配慮が必要で、5 名集まると支援員が必要になるなど簡単にはいかないのですが、進めていきたいと思っています。

(株式会社 FM.Bee 高畑様)

引きこもりの方がお仕事をされているとのことですが、内容等を教えて下さい。

(立科町 地域おこし協力隊 牧内氏)

アノテーション (AI 学習) 業務です。

(株式会社 FM.Bee 高畑様)

IT 業界の方に引きこもりの方が多く、プログラムを組んでやれたらと思っております。一度、そちらの社協さんにも伺ってみたいと思っております。

(事務局)

ひきこもりの方が住民ワーカーとして活躍いただいているのですが、この方は、偶然当事業のスキームにひっかかっただけで、こちらから探してアプローチしたのではないのですね。偶然来ていただいた。他にも同じようにこの事業で活躍できる引きこもりの方は、町の中にいると思いますが、アプローチするための情報がないという課題があります。社協さんでは、ご存知ですか？そここのところのご支援をいただきたい。

(立科町社会福祉協議会 櫻井様)

すべての方の情報があるわけではないですが、保健師さんが家庭訪問をする際や、ご近所の噂話などで、情報が入ってきます。

(2) 現状の課題と次年度の取組みについて

【事務局から資料4について説明】

(司会)

事務局からの説明は以上になります。皆様からご助言をいただければと思います。最初にTOSYSの横澤部長様からお願いします。

(株式会社 TOSYS 横沢様)

非常によい計画だと思っておりました。課題の中で「ワーカーのスキル向上」とあります。どういうスキルをアップしていくかということですが、先ほどのアンケートの中にはワーカーさんのネガティブな発言というものがなかったようです。住民ワーカーさんたちが受け持った業務に対して、どのような印象を持たれているのか興味があります。もし、ネガティブな思いをお持ちの方がいらっしゃるとしたら、それをどのようにされるのか。

当然、仕事を委託する企業の役目でもあり、ディレクターさんのお仕事でもあると思います。具体的にネガティブな発言があって、それをどのようにやっていくというようなことがありましたら、知りたい部分です。住民ワーカーの方とのヒアリングを重ねていくことが心のケアにつながると思いますので、ルーチンワーク的な計画に落とし込めると良いのではと思います。

あとセキュリティの関係でも心配なことがあります。ワーカーさんのリテラシーの部分について、例えば業務で携わった情報を忙しいからと言って、自宅にUSBメモリー等で持ち帰るというような事をしてしまう場合があります。一般的なICT機器を使った上での仕事の進め方において、社会通念上、セキュリティを守りながら、仕事をしないといけないというスキルをつける必要があります。

リテラシーの向上やセキュリティにまつわること、例えばメールを間違えて送ってしまったということがないように、また、そのような事態が起こった場合には必ず報告をすることというルール作りも必要だと思います。

(司会)

ありがとうございます。では現場で携わっている牧内さん今の点で、現状、お話できることがありましたら、よいでしょうか。

(立科町 地域おこし協力隊 牧内氏)

ワーカーさんから、いやだとかつらいという話は受けておりません。業務の中で、進め方などで困ったことがあるという相談はあります。

ワーカーのリテラシーにつきましては、業務の部屋からモノは絶対に持ち出さない、外から見えないように業務をするという点を徹底しております。

塩尻のワーカーも同じですが、ワーカーが業務を選ぶ形になっており、こちらから特定のワーカーにこの業務をやってくれということができない状態となっています。仮に担当のワーカーが他の業務に移りたいと言われた時にはこちらで止めることができないので、代わりにできる方を募集して、業務を担当いただくという形となります。

(株式会社 TOSYS 横沢様)

非常に心強いお話をいただき、ありがとうございます。リテラシーについては、インシデントは忘れた頃に起こるといふモノなので、継続的に教育・研修を続ける事が重要です。

(事務局)

定期的な定例会をクライアントさん毎に実施する必要があると考えております。各クライアントさんとの定例的な業務の打ち合わせを私とディレクターと塩尻とワーカーで開催していこうと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

(司会)

続いて、フィールドデザインの宮下様、お願いします。

(株式会社フィールドデザイン 宮下様)

皆さんの素晴らしい意見、ありがとうございます。今、うちでテレワークに力を入れておりまして、常駐しているメンバーが5名で、住民ワーカーさんが15~20名位でやっております。そのほとんどがデザイナー、コーディングといったシステム的なところをやっております。

これまでやっていて思ったことが、私と同じ業界では人が足りないという現状があります。先日も同じ業界の人と話をしたのですが、未経験でもいいので誰かいい人がいないかという話が出ました。これは絶対、今後うまく活用することで、住民ワーカーさんの仕事が幅広くなるのではないかと考えています。

うちも挑戦しているところでして、今やっている中でとても重要な点は、ディレクター的なポジションになる人がどれだけ考えを持っていて、自分で行動を起こせて、なおかつ責任感のある方という要素がもっとも重要ではないかと考えています。その要素があれば、どんな時間であっても、成果さえあればうちは評価のひとつと考えてやっております。

今現在、このような形でお仕事させていただいたことによって、立科町の住民ワーカーさん2名に仕事をお願いしていることもありますし、クライアントさんを紹介して、直接、お客様と会話してもらって、Webサイトを構築していただき、困ったことがあればうちから別のワーカーさんを紹介して、チームを作って、先日、1つ完成もしています。このようなこともできると

思っています。

もちろん、そこに私も責任をもって見ていかないとはいけません。本人の考え方、思い、経験力が一番大事と考えた時に、未経験でも可能性はあると思いました。今後もこのようなテレワーク事業は重要なことだと思いますし、おそらく、うちのような会社はこれからこのような体制が増えていくと考えています。うちのテレワークのメンバーは、週に1回、出社してもらっています。うちの会社としての考え方もありますが、情報共有は電話やメールなどでは、ずれてしまうこともあるので、直接、会話したり、ランチを食べたりしています。ちょっとした悩みなどを聞くことができます。週に1回会うことで、うまくまわっているのかなと感じています。そういうところについては、立科町含めて、いろんなワーカーさんと連携していきたいと考えています。

(司会)

ありがとうございます。続いて、アシストビジョンの乙吉様、お願いします。

(株式会社アシストビジョン 乙吉様)

尾形さんと同じで、住民ワーカーのヒアリング結果に関心があります。この中で、希望する働き方というところで、将来正社員として働きたいという意識の高い方がいらっしゃいますが、これをもう少しブレークダウンして、将来正社員として採用があった場合、町内でないと駄目なのか、県内まではよいのか。思い切って一度は県外に出てもよいのか、という意識調査を行っていただき、ずっとではなく3年~5年、県外で働いてもよいという方がいらっしゃったら、弊社の方に連絡していただき、弊社でスキルアップをしていただいておりますということもできます。昨年、弊社で蓼科高校の新卒の方を1名、採用させていただきました。それなりに大規模システムの設計などできるようになっていただいて、設計ができるリーダーとして人の取りまとめができるというスキルを付けて、立科町に帰ってきていただくと、首都圏から仕事を切出してきた場合に、スムーズに働いていけると思います。そのようなご提案をさせていただきたいと思います。

(司会)

ありがとうございます。商工会の舞沢様、お願いします。

(立科町商工会 舞沢様)

地元企業とのマッチングの点ですが、業務の切出し方がわからないという点はあると思います。先程お話に出ましたが、情報保護の関係で仕事を持ち帰って行うということもあります。

今、商工会で会員企業様にアンケートしまして、住民ワーカーに仕事をお願いした場合、どのような点が問題になるか？という設問に対して、多かった回答が個人情報、情報の取り扱いについてでして、気になっている企業が多いようでした。

その点をカバーしていくことが今後の課題になると思っています。私見となりますが、このようなテレワークの拠点があることは非常に素晴らしいと思いますが、今回のような新型コロナ

新型コロナウイルス感染症の問題が起こった際に、ワーカー同士で感染しないかという点が気になっています。ゆくゆくは、自宅や個室で仕事ができるようにしていくことも安定して仕事をしていくために大切ではないかと思っています。

(司会)

ありがとうございます。全体を通して、参加いただいている皆様からアドバイスいただけることがありましたら、お願いします。事務局側で話を聞きたいという方はいますか。

(ネットワンシステムズ株式会社 尾形様)

今回、2名のワーカーさんに参加いただいているので、ワーカーさんの声も聞いてみたいと思います。

(住民ワーカー Aさん)

気になった点は、地元の企業さんが、個人情報を取り扱っている点でどのようなことがリスクに感じているのかを知りたかったです。深いところまででなければ、具体的に業務を担当しているの、似ている点があるようであれば、私達の業務実績として紹介して、横展開ができるのではないかと思います。

(住民ワーカー Bさん)

私は、今スキルアップの段階で少しずつ仕事はいただいているのですが、どの方向に走ればよいかわからなくなっています。いろんなことを学んでいて広く学ぶべきか、どれかを突き詰めた方がよいのか。先の仕事の着地点が見えていないので、わからない状況です。どのスキルを付けることで早く仕事に結びついて、立科町ワーカーの戦力になるのか。あとの人達につなげられるのかということが、それぞれの人が分担してその部分を深めていければ、力が付き、広がっていくのではないかと強く感じています。そこをもう少し、指導していただきながら、分担していくということも今後の課題ではないかと考えます。

(司会)

ありがとうございました。参加されている皆様から、他に何かありましたら、お願いします。

(株式会社フィールドデザイン 宮下様)

今の長岡さんのお話、その通りだと思いました。どこがゴール地点なのかというのは、すごく難しいポイントであります。うちの業界のことになりますが、技術として学んでいく道の中で、在宅で仕事をしたいのか、自分の時間をうまく使って仕事したいのか、最終的に就職を目指したいのか、Bさんはどう思っていますか。

(住民ワーカー Bさん)

私は立科町に引越ししてきて一番感じていることは、環境的に1人でやれる環境をつくり出

せることはとても大事だと思っているので、この事業に興味を持ち、ワーカー登録しました。うまく時間を有効利用できるということに魅力を感じているので、その点をぶれてはいけないと思っています。

(株式会社フィールドデザイン 宮下様)

いろいろな方法があると思いますが、在宅でできる仕事は沢山あると思っています。簡単なデータ入力からエクセルでの経理的なことや専門的なデザインなど。うちの業界では、専門的な仕事の方が依頼されやすいと思います。ピンポイントでデザインができる人が欲しい、この資料をまとめてくれる人が欲しい、プログラムをつくれる人が欲しいといった、明確な人の方が早いと思います。仕事もスムーズにできると思います。もちろん、自分に向いているのか、向いていないのかということもあると思いますが。また、いろんな情報を知っている場合、ディレクター的な位置でやっていくやり方もあると思います。そのような人に関しては、ワーカーさんとの連携や横との連携も強いので、常に営業先などの悩みを聞くという立場になれると思います。

(株式会社 TOSYS 井川様)

企業がテレワークを依頼する上で、研修を受けてスキルを上げることと、実際に業務をしていく中でスキルをあげていくという2つの部分があると思います。研修と違って、実際の業務を進める中で覚えることは、非常に効果的とも言えます。いろいろなお仕事をされる中でスキルをあげていくことで、その場面で臨機応変に仕事をこなしていく力は、様々な企業の仕事をする上でも活かす事ができます。どんな仕事でも通用するスキルを付けていただけるとよいと思います。

(司会)

他にはないでしょうか。

(立科町 地域おこし協力隊 牧内氏)

今回の資料に入れておりませんが、ワーカーのヒアリングで希望する業務も聞いています。立科町の住民ワーカーは、半分以上の方が単純作業をやりたいと言っています。もちろん、クリエイティブに Web、チラシなどの制作希望するワーカーもいて、二分しています。

(株式会社アシストビジョン 乙吉様)

先程、住民ワーカーさんが言っていた、これを覚えたら、何ができるのかがわからないまま進めているということはないでしょうか。目的と必要スキルのマッピングができていて、それに基づいて、ヒアリングを行っているのでしょうか。

(立科町 地域おこし協力隊 牧内氏)

今年度実施している研修は、今後のための基本スキルをつけるという目的になっていて、特

定の業務のためではありません。

(司会)

ご助言、アドバイス、ありがとうございます。

次年度以降、事業を進める上で、引き続き、よろしくお願いいたします。

(3) 構成員の皆さまからということいろいろとご意見いただきましたが、ネットワンシステムズの尾形様から資料提供(非公開)いただいておりますので、お話をさせていただきます。

(ネットワンシステムズ株式会社 尾形様)

立科町がすすめているのは、雇用創出型と福祉型のテレワークですが、テレワークに最低限必要なスキルを学ぶということから入っています。最初は誰でもできる仕事、オペレーション型をまずやりましょうとなっています。その先は、スペシャリスト型かマネージャー型になっていくと言われていています。スペシャリスト型の場合は、CADができる、Web デザインができるといった在宅でできる仕事を目標せばよいですし、ディレクターとして、ワーカーをマネジメントしていく方が好きという方はそのような道に進んでもらえばよいということが一般的に言われております。

いろんな自治体と働き方改革やテレワークの勉強会だとか、実証実験を行っております。一般的に言われるのが、働き方改革の法案がいよいよ執行されて中小企業もやらないといけなくなります。ほとんどのものが有給休暇取得の義務化、残業規制などの時間の話になっています。それに伴って、ワークライフバランスということになり、ワーケーションという話になっています。サテライトオフィスは、現在、全国に 512 ヶ所もあって、いろんな自治体がつくっていますが、残念なことに 13%が撤退しています。造ったものの、企業に有効活用してもらえないところが多いようです。というのも自治体は、箱物を先につくって中身がないということが多いことが原因かと思えます。ワーケーションという言葉ができてきて、長野県と和歌山県が自治体協議会を作りました。長野県のワーケーションに立科町も入っているというのが、大きな流れです。

人口減でも持続できる地方にというのが、基本的な考え方です。東京一極集中は是正するどころか、進んでおります。出生数も 90 万を切ってしまっています。日本全体がシュリンクしている中で、人の取り合いをしても仕方ないねという話で、ではどうするのかというと、地域で持続できるような経済状況をつくっていくということです。根本的な考え方としては。

資金が地域で循環する仕組みづくりが大切だとなっています。住民の 1 人 1 人が稼げるようになっていく。外に出さなくても、地域の中で周っていく社会をつくっていくことが根本的な考え方だと思っています。雇用をここでつくっていくことは、非常に大切なことであり、その中でテレワークやサテライトオフィスは 1 つの手段として有効であると言えます。いい流れになってきたのは、SDG's や企業の ESG 投資や社会的な責任、環境に対して目が向けられ始めています。そこをうまく考えていくということと、台風 19 号の被害、新型コロナウイルスの影響、東京オリンピックなどで、今年はいっきにテレワークが注目されて、それもポイントになると思います。昨年実施しましたが、テレワークデイズにうちの社員 20 名が 3 日間くらい、塩尻で

働きました。仕事だけでなく住民ワーカーとの交流も行いました。

参考になるのは塩尻だと思います。昨年の受注額は1億、今年は1億8千万円のテレワーク事業となっています。どんどん伸びています。先人に教えてもらうということは大切だと思います。今、10の団体と地域連携をしています。塩尻が集めてきた仕事を他の地域の方にもやってもらっています。実は、中津川でワーカー募集をしたところ、20~40代の中学生までの子育て中の女性が30人も集まりました。有効求人が2.0%くらいある場所なのですが、これだけお母様方が集まるというのは、好きな時間に好きなだけ働けるということがマッチしているのだと思います。子育て中の女性は、こういう働き方に興味があるということがどの地域でもあるということです。このようなテレワーク事業はどこの地域でも有効なのだなと感じています。

障がい者雇用については、塩尻でテレワークを通じて、やっていただくことになっています。OKIワークウェル様はまさにテレワーク専門のツールもつくっていて、そのような企業もこのコンソーシアムに入っています。

立科町のことを和歌山で話をしたところ、非常に興味を持っていました。立科町の素晴らしいところは、国からこんなにお金をもらってこられる自治体はありません。パソコン教室などを無料で実施している自治体は皆無です。立科町の住民ワーカーさんがいかに恵まれているかということを実感していただきたい。そこから仕事も与えてくれているということもやっています。3年後の受注額3,000万円という目標は、ぜひワーカーさんも含めて、全員で達成させたいと思います。ワーカーさん全員が営業のような気持ちで、みんなでやっていきたいと思っています。立科町と塩尻の見学も多くなってきていて、先日も熊野市と東白川村さんが立科町を見に来ています。ここにいるワーカーさんが1つの成功事例になる可能性のある場所で働いているという意識を持ってやっていただけるといいと思います。

静岡市でアンケートをとったところ、静岡に帰りたい／行きたいが、仕事はやめたくないという人が多くありました。では、仕事をやめずにテレワークでやってもらって、帰ってきてくださいという形。

企業の理解と個人の考え方によることが多く、ただ静岡は、10拠点位あるので、そこをネットワーク化して、来た人がどこの拠点でも使えるということを来年度やろうとしています。職員の働き方改革も同時に進めて、職員もどこでも働ける市にできるように進めています。

規模感・考え方・地域性によってやり方は違いますが、立科テレワークは、福祉型テレワークで、教育を含めてやっているということで事例としてないので、実績としてのばしていきたいし、今日もとてもいい議論ができていますので、定期的にできたらと思います。

住民ワーカーさんと企業のマッチングには地域性があるので、立科テレワークが外に仕事を出さなくていい、地域で回っていくようなになればと思います。